記者発表資料

平成２６年　１月　１６日
津 軽 ダ ム 工 事 事 務 所

第16回津軽ダム猛禽類検討委員会　審議結果について

津軽ダム猛禽類検討委員会（委員長：小笠原暠　秋田大学名誉教授）を平成１６年７月に設立後、これまで１５回の委員会を開催し、希少猛禽類とダム事業の共存方策を継続して検討・実施してきました。この中で、平成１９年２月には「希少猛禽類のための生息環境配慮指針」を策定し、希少猛禽類の生息環境に配慮しながら工事を進めています。

第１６回津軽ダム猛禽類検討委員会では、平成２５年シーズンの調査結果ならびに平成２６年シーズンに予定している工事の配慮計画等について審議していただきました。

【開催概要】

■開催日時　　平成２６年１月１６日（木）１４：００～１６：００

■場　　所　　弘前プリンスホテル　２Ｆ　孔雀の間

■審議結果　　別添のとおり

〈発表記者会：弘前市記者会、専門記者会〉

【問い合わせ先】
国土交通省　東北地方整備局　津軽ダム工事事務所
電話　0172-85-3005　FAX 0172-85-3016

調 査 設 計 課 長　　吉田（よしだ）　久（ひさし）　(内線351)

専　　門　　職　　田嶋（たしま）　正樹（まさき）　(内線350)

第16回　津軽ダム猛禽類検討委員会　出席委員

氏名	所属	役職	備考
東　信行	弘前大学	准教授	
小笠原暠	秋田大学	名誉教授	委員長
小山信行	日本野鳥の会　弘前支部	支部長	
関山房兵	猛禽類生態研究所	所長	
竹原明秀	岩手大学	教授	
宮川圭司	自然写真家		
由井正敏	東北鳥類研究所	所長	

※五十音順

〇委員会の審議結果（要旨）

１．平成２５年シーズン調査結果

【審議結果】

・ 平成２５年シーズン工事の配慮対象であったクマタカ、オオタカのつがいについてモニタリング調査した結果、飛翔状況や繁殖状況等から、工事による大きな影響は確認されなかった。
・ 今後も引き続き、希少猛禽類の生息環境及び繁殖に配慮しながら工事を進めていく必要がある。

【主な調査結果】

〇生息状況

・ 調査範囲には、クマタカ７つがい、オオタカ１つがいの生息が確認された。

〇繁殖状況

・ クマタカ４つがいが繁殖に成功し、幼鳥４羽の巣立ちが確認された。

〇クマタカとオオタカの人工巣（誘導巣）について

＜補修＞

・ これまで、クマタカ１つがい、オオタカ１つがいについては、営巣地周辺の環境変化に対する保全措置として、より離れた場所への営巣を誘導するため、人工的に作った巣（人工巣：誘導巣）を設置している。
・ そのうち、オオタカ１つがいについての人工巣（誘導巣）のうち、巣を支える枝が折れて巣が傾いたものについては、引き続き保全措置の効果を期待し、人工巣の補修を行った。

＜新規設置＞

・ 上記とは別のクマタカ１つがいの営巣地に、工事に対する保全措置として、より離れた場所への営巣を誘導するため、人工巣（誘導巣）の設置を行った。

２．平成２６年シーズン配慮計画と調査計画

【審議結果】

- 平成２６年シーズン配慮計画と調査計画について説明し、了承された。
- なお、今後のモニタリング調査結果により、工事予定箇所付近に営巣が確認された場合には、施工時期など十分配慮する必要がある。

【主な配慮計画・調査計画】

- 平成２６年シーズン工事の配慮対象となるつがいは、クマタカ７つがい、オオタカ１つがいとなる。
- 配慮計画は、工事時期・工事着手箇所の調整や工事照明の調整の他、工事の騒音・振動、建設機械の存在に徐々に慣れさせていくコンディショニングを実施する。
- 平成２６年シーズンの調査計画は、工事の影響に関するモニタリング調査の他、行動圏が特定されていないクマタカの行動圏把握のための調査を実施する。
- この他、行動圏が把握されている猛禽類の行動圏の変化や、貴重鳥類についても、必要に応じて検討する。